

二〇二六年三月二八日（参加者八名）

頬撫せて春風通ふ足湯かな	よし女
水温む泥田に泡の生まれけり	勉 聖
簷反らす五重の塔や春日燦	伸 枝
唐風の寺苑を統ぶる大白木蓮	わかば
椿落つ泥だらけなるけもの道	あきこ
開きたる春雨傘に亡夫の文字	よし女
のどけしや鳩が闊歩す骨董市	なつき
陋巷を明るうしたる花辛夷	わかば

月例会会みのる選・二〇二六年三月一日